

寿楽つうしん

平成25年1月号

平成25年1月発行

発行 老人福祉センター菊名寿楽荘
発行責任者 富田 公道
横浜市港北区菊名3-10-20
TEL 045(433)1255

何となく 今年はやい事あるごとし
元日の朝 晴れて風無し

石川啄木

新年のご挨拶



菊名寿楽荘
所長 富田公道

あけましておめでとうございます。
また、新しい年が始まりました。
いくつになっても何回やってもお正月
はなぜか身が引き締まります。
お正月にはそんなエネルギーがある
のでしょう。

さて、一昨年の東日本大震災以来日本の復興はまだ道
半ばというところですが、こうした中、昨年は尖閣や竹島更
には北方四島など領土や安全保障に関する問題が多発し
ました。経済力をはじめとする日本の国際力が弱くなった
ことを実感します。

一方政治は暮れに行われた衆議院選挙により自民党が
圧勝し、振り子の針がまた振れることとなりますが、どの
党が政権を握ろうが国民にとってより国民サ
イドに立った政治を期待したいものです。



いづれにしても平成25年(2013年)は、私
たちにとって明るく元気で平和に、そして未来
が展望できる一年になって欲しいものです。

皆様にとってこの一年がこころ豊かでご健
勝でありますことをお祈り申し上げます。

ノロウイルス流行の兆し！

ノロウイルスによるとみられる感染性胃腸炎が流行の兆しを
みせています。過去10年で最も流行した平成18年に次ぐ
ペースで患者が増加。例年は12月中旬にピークとなることから、
厚生労働省は11月27日、感染防止策をまとめ
都道府県などへ注意喚起しました。感染すると、
24~48時間の潜伏期間の後、嘔吐(おうと)や
下痢を繰り返します。感染研の主任研究官は
「流行を拡大させないために、外出やトイレの
後などには手洗いをしっかりとしてほしい」と話
しています。皆さんもお気を付けください。



今月の和歌の解説

【補記】いしかわたくぼく。明治43年暮れ。24歳。
生まれたばかりの長男を亡くし父も母も妻も不健康、自分も体
の不調のため夜勤をやめた。
「而して残額僅かに一円二十一銭に過ぎず。」
負債は百数十円・・・。
こうして迎えた1911年(明治44年)1月。啄木は詠う。
何となく、
今年はやい事あるごとし。
元日の朝、晴れて風無し。

石川啄木

啄木が目線は未来にあります。
変えられない過去はすっぱり忘れ、明日へ向かっています！
石川 啄木は明治19年(1886)2月20日、岩手県南岩手郡
日戸村に生まれた。本名一(はじめ)である。常光寺という
「お寺」の4人兄弟の男児一人、両親などに溺愛され、才能も
豊かで「神童」と呼ばれたという。盛岡中学在学中、先輩金田
一京助・野村長一(胡堂)らの指導で文学を志し、「明星」など
に投稿していた。次第に学業成績の低下、テストでの二度の
不正行為もあり退学、文学で身をたてるべく17歳で上京する。
「与謝野鉄幹・晶子」夫妻の知遇を得たが、意にそぐわず
失意のうち帰郷する。かねて恋愛中の堀合節子と20歳で結婚、
代用教員などで生活を支えた。そして住職であった父の失職
も重なり、長男である啄木は 新天地を求め、満21歳で北海
道(函館・札幌・小樽・釧路)へ渡り記者生活を送るが、最果
ての国の生活に耐えられず、滞在 約1年で再度上京、創作
生活に入るべく決意するがならず、晩年は朝日新聞の校正係
として、病氣・生活苦・家庭不和と目まぐるしいが、濃厚で変
化の多い生涯でもあった。その間詩・小説・評論・短歌のジャ
ンルに挑戦したが、なかでも「短歌」と社会的関心の濃い「評
論」が高い評価を得ている。明治45年(1912)4月13日、
桜も舞い散る時期「文京区小石川5-11-7」にて肺結核の
ため死去した。まさに波乱万丈、明治とともに鮮烈な時代思
想を示しながら、人生を急いだ天才は僅か満26歳であった。

平成24年の「今年の漢字」は「金」でした。

「金」を大書した清水寺の森清範
貫主は「東日本大震災などに
よって日本中が暗い中、世界的
な偉業に一筋の光明を見つけ、
将来を見ていこうとの気概を感
じた」と話しました。





1月のスケジュール



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		休館日	休館日	休館日	休館日	
6	7	8	9	10	11	12
卓球開放	太極拳	古城と古寺散策	ウクレレ教室 健康相談	歌声教室 健康体操	英会話 水彩画 編物教室 健康麻雀	初めての書道
13	14	15	16	17	18	19
卓球開放	バードカービング		椅子に座って エクササイズ 栄養相談	横浜郷土史 健康体操	英会話	
20	21	22	23	24	25	26
卓球開放	太極拳	休館日	ウクレレ教室 健康相談	健康体操	英会話 水彩画 編物教室 健康麻雀	初めての書道
27	28	29	30	31		
卓球開放	バードカービング	古城と古寺散策	椅子に座って エクササイズ	歌声教室 横浜郷土史 健康体操		

元気わくわく教室受講者募集！

* 募集期間 1月5日(土)～18日(金)

- ①わくわく体操 1月29日(火) 13:00～15:00
- ②フットケアの話 2月 5日(火) 13:00～15:00
- ③口腔ケアの話 2月12日(火) 13:00～15:00
- ④栄養の話 2月19日(火) 13:00～15:00
- ⑤脳トレの話 3月 5日(火) 13:00～15:00

* 募集人員 20名(抽選)

(65歳以上の横浜市民対象)

* 申込方法 ①窓口受付 ②郵送受付

* 受講料 無料

詳細は館内のご案内を参照。



めでたさも中くらいなりおらが春 小林 一茶

新年あけましておめでとうございます。今回取り上げるのは、ご存知小林一茶の名句です。この句の「おらが春」の「春」は四季のうちの春ではなく、旧暦のお正月すなわち元旦を意味しています。つまりこの句は一茶流の新春の句であるのです。句意は至って簡単明瞭です。「世間様はめでてえと言っけん、おらっ家(ち)のお正月は、めでたさも中くらいてえとこかな」というのです。

ただ上記は通り一遍の解釈で、この句の成立過程を調べてみますと、少し違った意味が現われてきそうです。この句は小林一茶が57歳の時、終(つい)の住処となる故郷の信濃(しなの-今の長野県)北部の雪深い寒村で作られた句です。そしてそもそもこの句は「おらが春」という題の連句の発句(ほっく)で、元々は 目出度さもちう位也おらが春 だったそうです。そして信濃の言葉で「ちう位」とは、「中程度」とはやや違ったニュアンスが含まれており、「いい加減」「たいしたことはない」というような意味合いになるようです。

めでたさも中くらいなりおらが春 そこに、自身の不遇への哀しみを奥に潜ませつつ、そんな自分をどこかで笑い飛ばしているような諧謔味が生まれてきます。また『これが俺の人生よ』という諦観がにじみ出ているようです。

味わい深い名句だと思います。

日本に伝わる 十二支の話

さてさて、「どうして十二支はあの動物なの？」と誰しもが一度は疑問に思ったことはありませんか？日本では、こんな民話が語り継がれています。

[編集後記]



昔々の大昔のある年の暮れのこと、神様が動物たちにお触れを出したそう。元日の朝、新年の挨拶に出かけて来い。一番早く来た者から十二番目の者までは、順にそれぞれ一年の間、動物の大將にしてやろう。動物たちは、おらが一番とて、めいめいが気張って元日が来るのを待っておった。ところが猫は神様のところにいつ行くのか忘れてしまったので、ねずみに訊くと、ねずみはわざと一日遅れの日を教えてやった。猫はねずみが言うのを間に受けて、喜んで帰っていった。さて元日になると、牛は「おらは歩くのが遅いので、一足早く出かけるべ」と夜のうちから支度をし、まだ暗いのに出発した。牛小屋の天井でこれを見ていたねずみは、ぼんと牛の背中に飛び乗った。そんなこととは知らず、牛が神様の御殿に近付いてみると、まだ誰も来ていない。我こそ一番と喜んで待つうちに門が開いた。とたん牛の背中からねずみが飛び降り、ちよろちよろと走って一番になってしまった。それで牛は二番、それから虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪の順で着いた。猫は一日遅れで行ったものだから番外で仲間に入れなかった。それでねずみを恨んで、今が今でもねずみを追い回すのだそう。

これは福島県のものですが、類話は日本全国に伝わっており、他に、遅れてきた猫が神様に「顔を洗って出直して来い」と怒られて、以来猫が顔を洗うようになった。猫がお釈迦様の薬を取りに行ったねずみを食べてしまったために十二支に入れてもらえなかった。などというものもあるそうです。そこでパンダ(熊猫)が目白黒させたとか...